



2011年度 第3四半期 決算説明資料

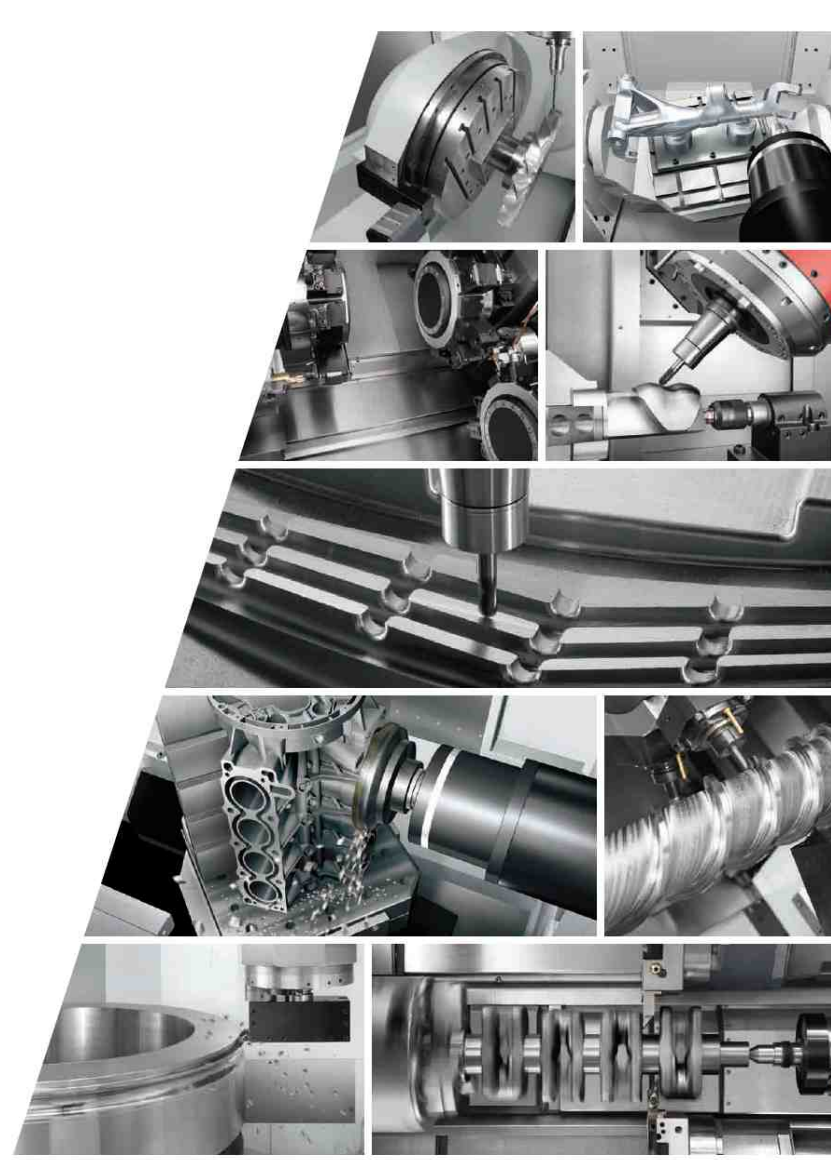
MORI SEIKI CO., LTD.

2012/2/2

当資料には、当社の目標、計画などの将来に関する記述が含まれております。これらの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報に基づく判断および仮定に基づいております。今後の経営方針転換、外部要因の変化により、将来的に実際の業績と大きく異なる可能性があります。なお、不確定性および変動可能性を有する要素は多数あり、以下のようなものが含まれます。

為替相場の変動

当社が営業活動を行っている市場内における法律、規制及び政府政策の変更
タイムリーに新商品を開発し、市場に受け入れられるようにする当社の能力
当社が営業活動を行っている市場内における政治的不安定さ





ハイライト

2011年度 第3四半期実績(累積)
売上高 1,103億円 営業利益 39億円

1. 第3四半期は売上、利益とも計画通り
2. 当社受注は高水準維持
アジア タイ洪水の復興需要が受注を押し上げ
3. DMG 欧州販売・サービス統合開始
4. 連結生産台数 月平均500台を確保



損益計算書

(百万円)	FY2010			FY2011		
	上期実績	3Q累積実績	通期実績	上期実績	3Q累積実績	通期予想 (2011/10時点)
売上高	46,590	78,360	120,428	71,812	110,311	152,000
営業利益	-5,740	-5,366	320	2,328	3,856	6,300
営業利益率(%)	-12.3%	-6.8%	0.3%	3.2%	3.5%	4.1%
経常利益	-6,305	-6,032	566	1,075	2,476	4,100
経常利益率(%)	-13.5%	-7.7%	0.5%	1.5%	2.2%	2.7%
当期純利益	-6,108	-5,895	1,307	1,225	1,770	3,900
換算レート (1 USD= **円)	88.9	86.8	85.7	79.8	79.0	78.0
換算レート (1 EURO= **円)	113.8	113.3	113.1	113.8	110.6	108.0

第4Q為替前提 USD=75円、EURO=100円



連結貸借対照表

単位:百万円

2011年3月末		総資産 171,949	
現預金	7,418	買掛金	11,451
受取手形及び 売掛金	32,085	有利子負債	47,755
		(内借入金)	45,172
		(内転換社債)	2,583
棚卸資産	38,836	その他負債	17,415
有形固定資産	54,421	純資産	95,328
		(株主資本)	96,360
その他資産	39,189		
Net Debt		40,337	
自己資本比率		54.6%	



2011年12月末		総資産 184,873	
現預金	5,859	買掛金	12,435
受取手形及び 売掛金	27,540	有利子負債	64,980
		(内借入金)	32,397
		(内転換社債)	2,583
		(内社債)	30,000
棚卸資産	49,275	その他負債	18,747
有形固定資産	55,709	純資産	88,710
		(株主資本)	94,714
その他資産	46,490		
Net Debt		59,121	
自己資本比率		47.2%	



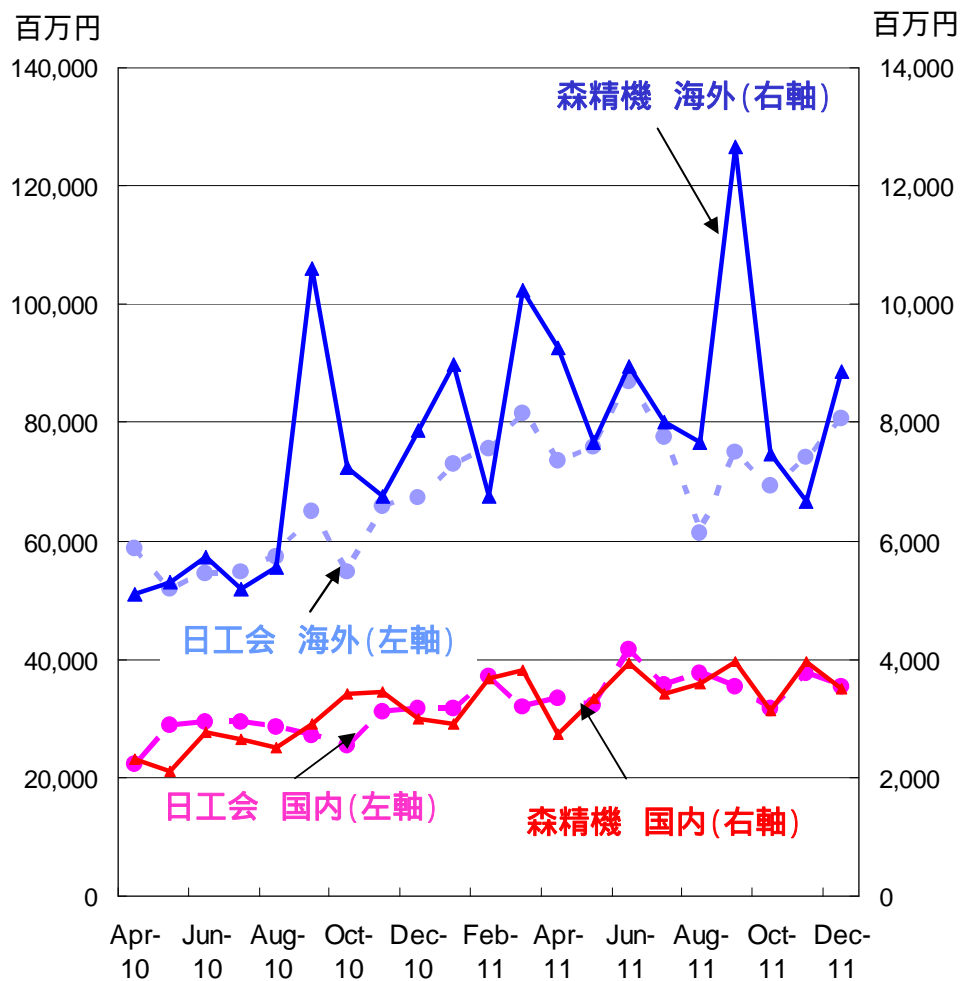
キャッシュフロー

	FY2010 3Q(4-12)	FY2011 3Q(4-12)
営業活動によるキャッシュフロー	-10,108	3,226
投資活動によるキャッシュフロー	-2,790	-18,985
財務活動によるキャッシュフロー	12,407	14,648
現金及び現金同等物の期末残高	6,917	5,855



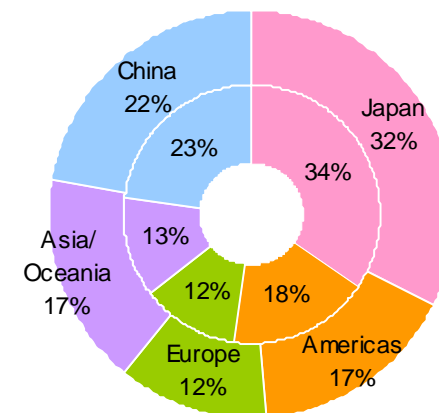
日工会/森精機受注

➤ 日工会・森精機ともにアジア受注比率増加



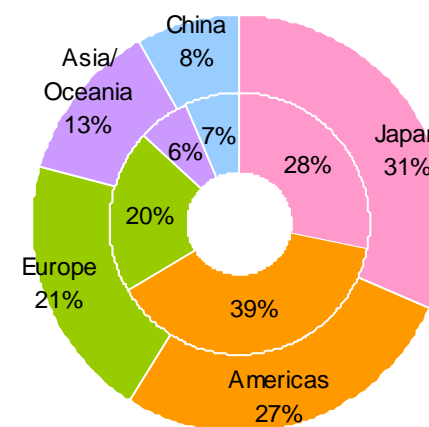
[日工会]

内円: FY2011_ 4- 9月
外円: FY2011_10-12月



[森精機]

内円: FY2011_ 4- 9月
外円: FY2011_10-12月





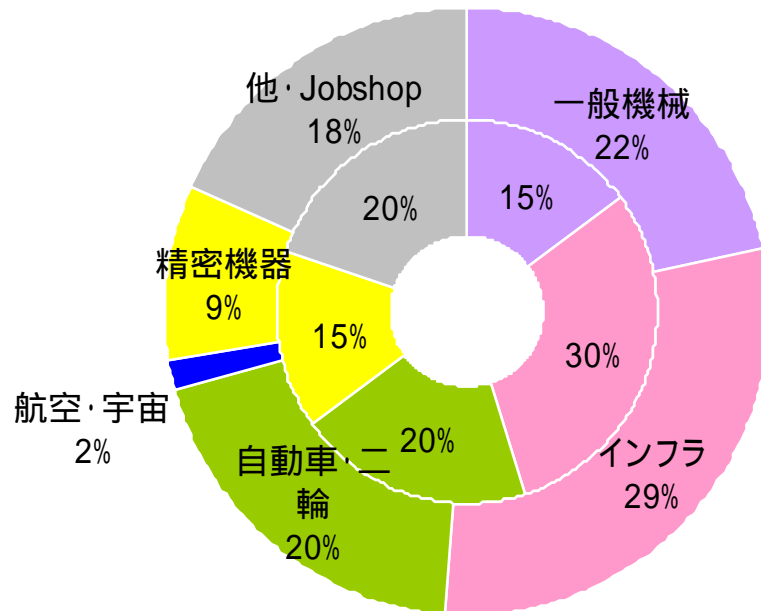
3Q受注構成(業種別)

金額ベース
機械本体のみ

- 国内は一般機械が増加
- 海外は自動車・二輪比率高まる

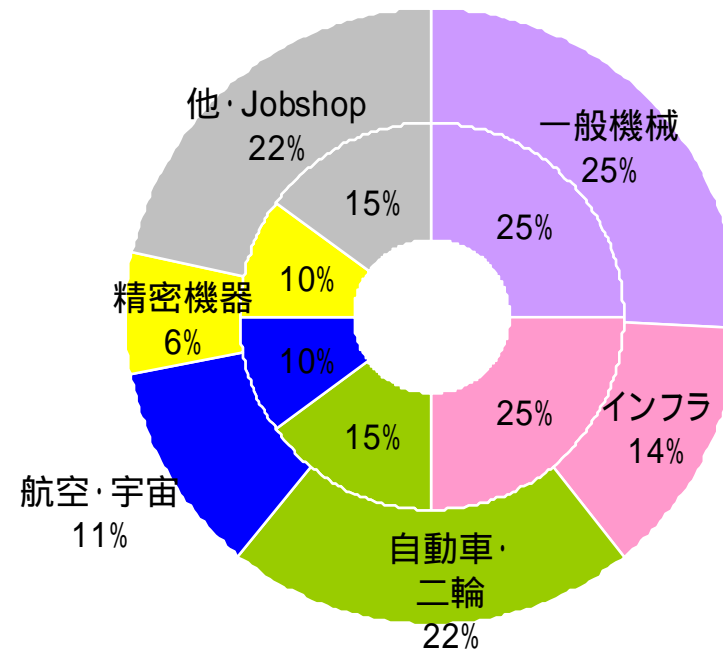
[国内]

内円: FY2011_ 4- 9月
外円: FY2011_10-12月



[海外]

内円: FY2011_ 4- 9月
外円: FY2011_10-12月

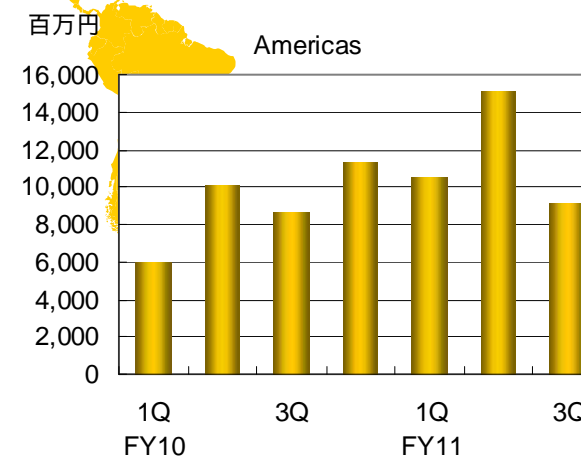
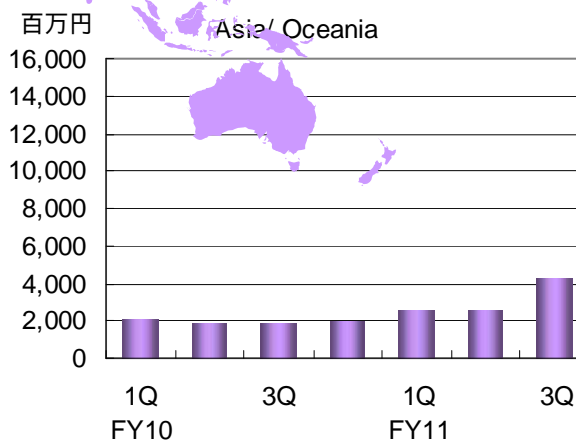
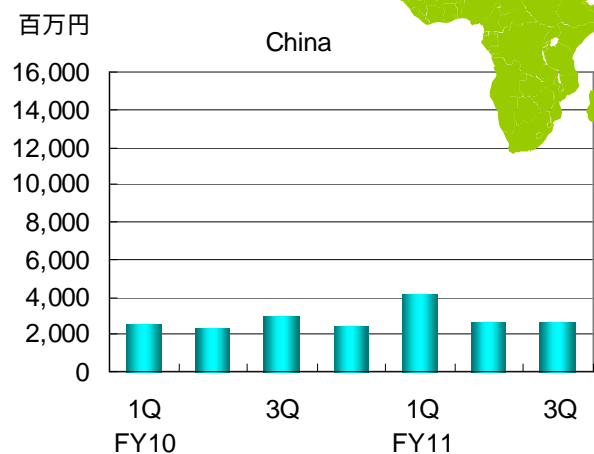
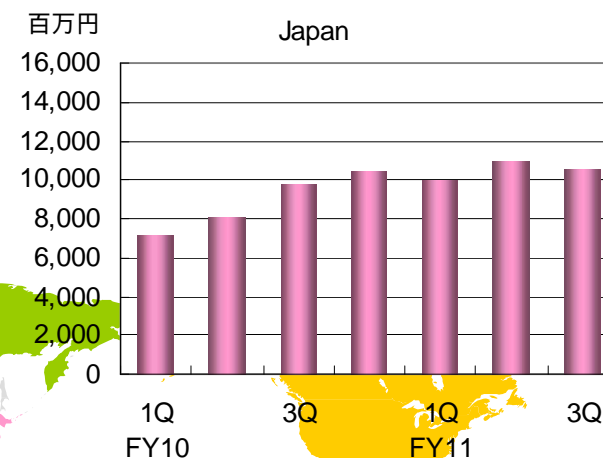
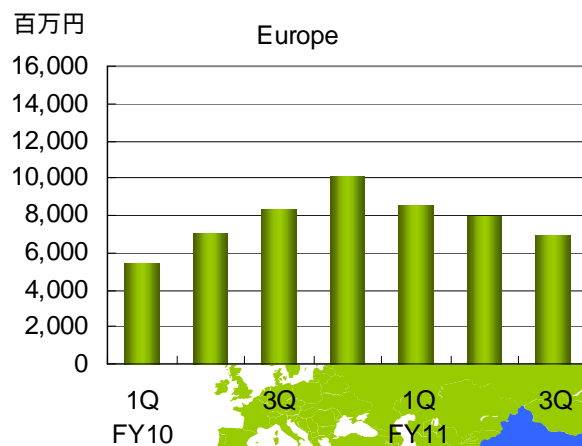




地域別の受注動向

➤ 日米堅調、アジアは倍増

金額ベース
機械本体+S&P





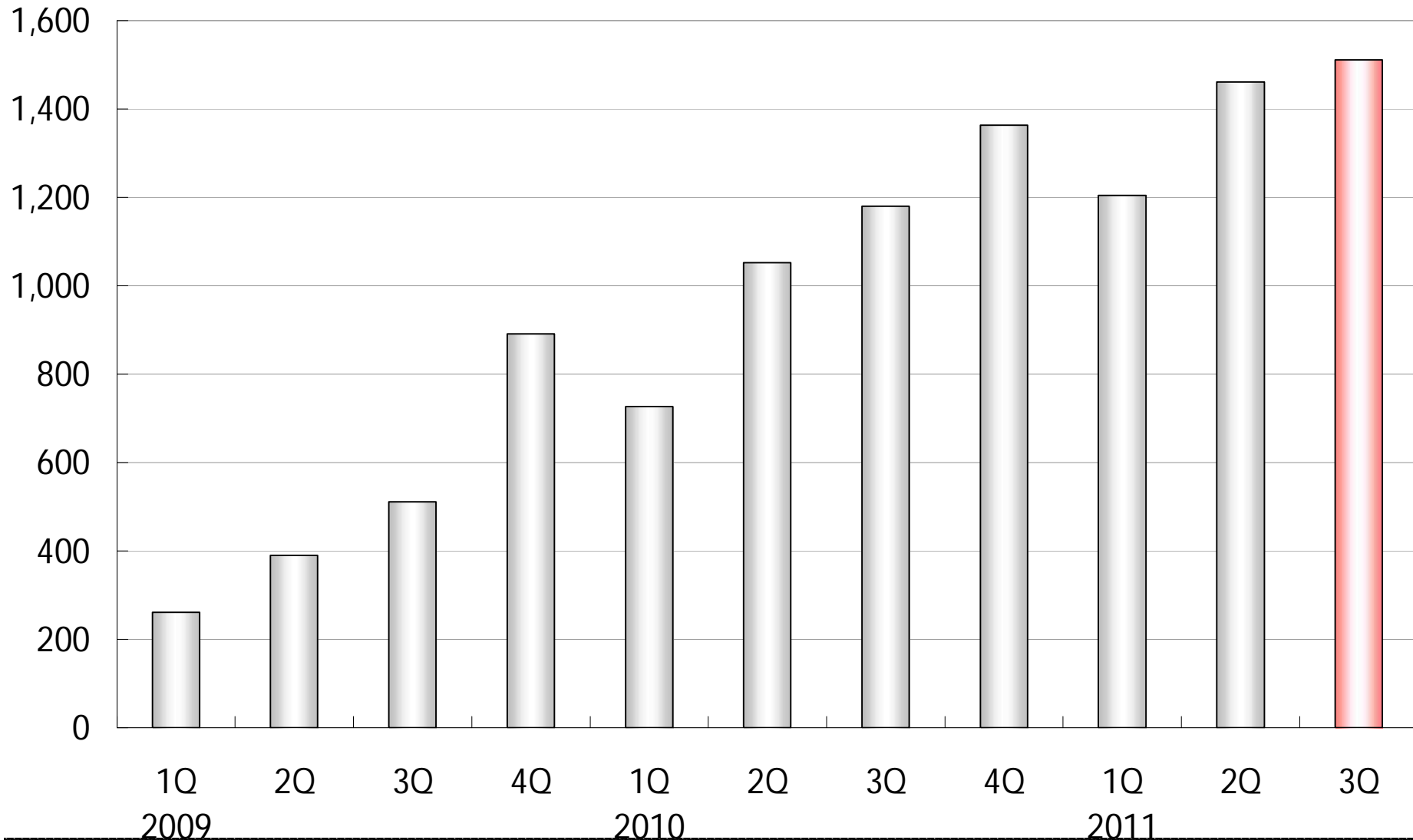
地域別売上

(百万円)	2010年度 3Q累計	2011年度 3Q累計		2010年度 通期	2011年度通期 (予想)	
			(前年同期比 伸び率)			(前年比 伸び率)
売上高	78,360	110,311	40.8%	120,428	152,000	26.2%
国内売上高	28,864	36,390	26.1%	44,531	53,200	19.5%
海外売上高	49,496	73,921	49.3%	75,897	98,800	30.2%
米州	19,352	32,052	65.6%	29,695	42,100	41.8%
欧州	16,759	25,886	54.5%	25,912	34,000	31.2%
アジア (中国含む)	13,384	15,981	19.4%	20,288	22,700	11.9%



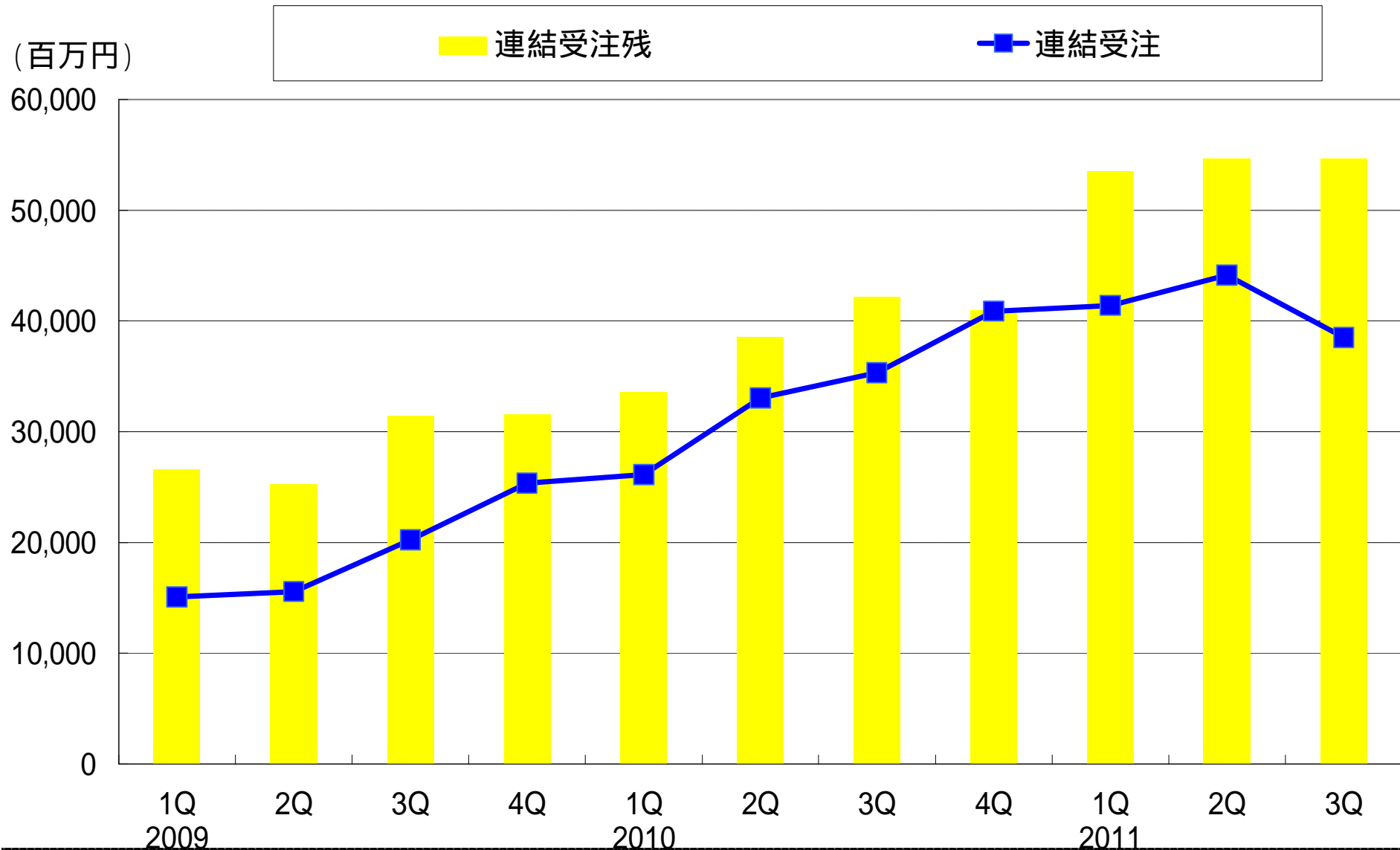
連結生産台数推移

➤3Q 1,511台生産 月産500台体制構築





連結受注、受注残推移





タイ洪水後の状況

▶11月よりタイ・インドネシア等周辺国からの受注急増

【現地調査、サービス】

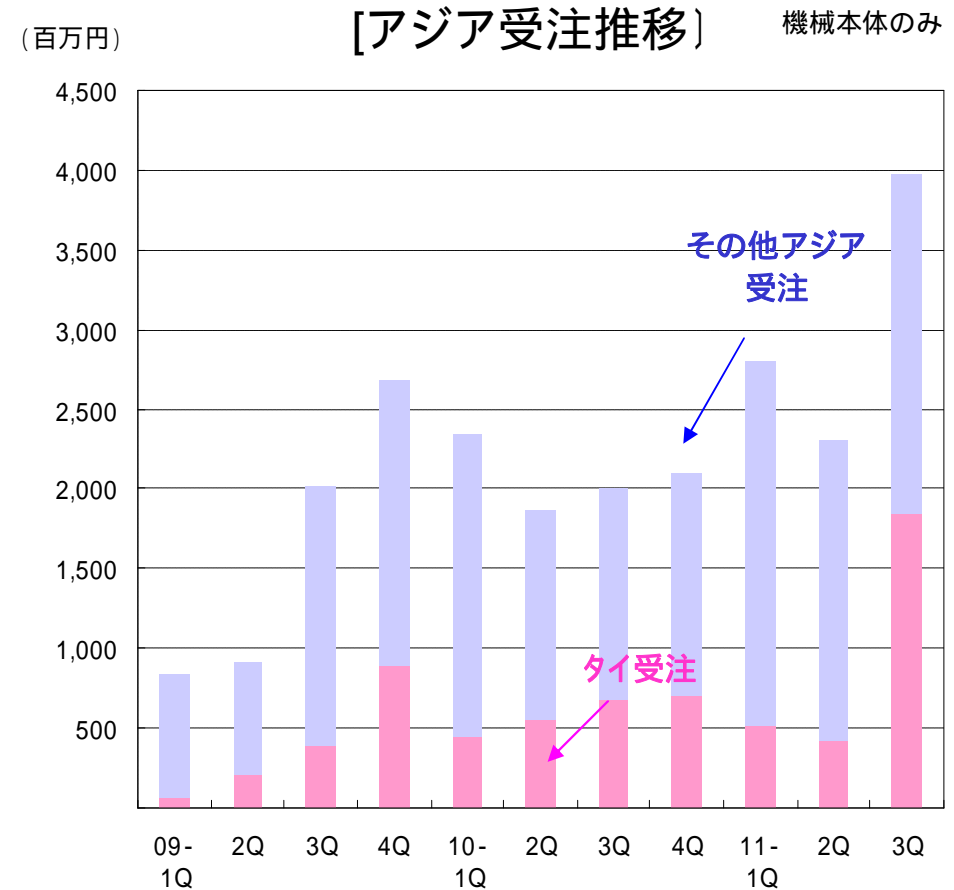
12月 20名、1月 10名を派遣

【生産】

被災機の代替生産を2012年1-4月生産に



【アユタヤTC付近 排水の様子】





DMGとの協業の歩み

共同購買 (部品共通化)



主軸 油圧ユニット ファンクーラ



NT6000 (Siemens)



NT1000 (Siemens)



NHX4000 (Siemens)



Ecoline

営業・サービス網の統合

森精機の販売したDMG機 (台数)

DMGの販売した森精機機 (台数)

協業開始



17

29

198

180

353

329

CY2009

3月: 5% 株式取得

2010

2011

4月: 20.1% 株式取得

2012

共同開発・製造



New Ecoline



DMU50/70



NHX5000 (Siemens)



NLX2500

共同購買



中国鋳物



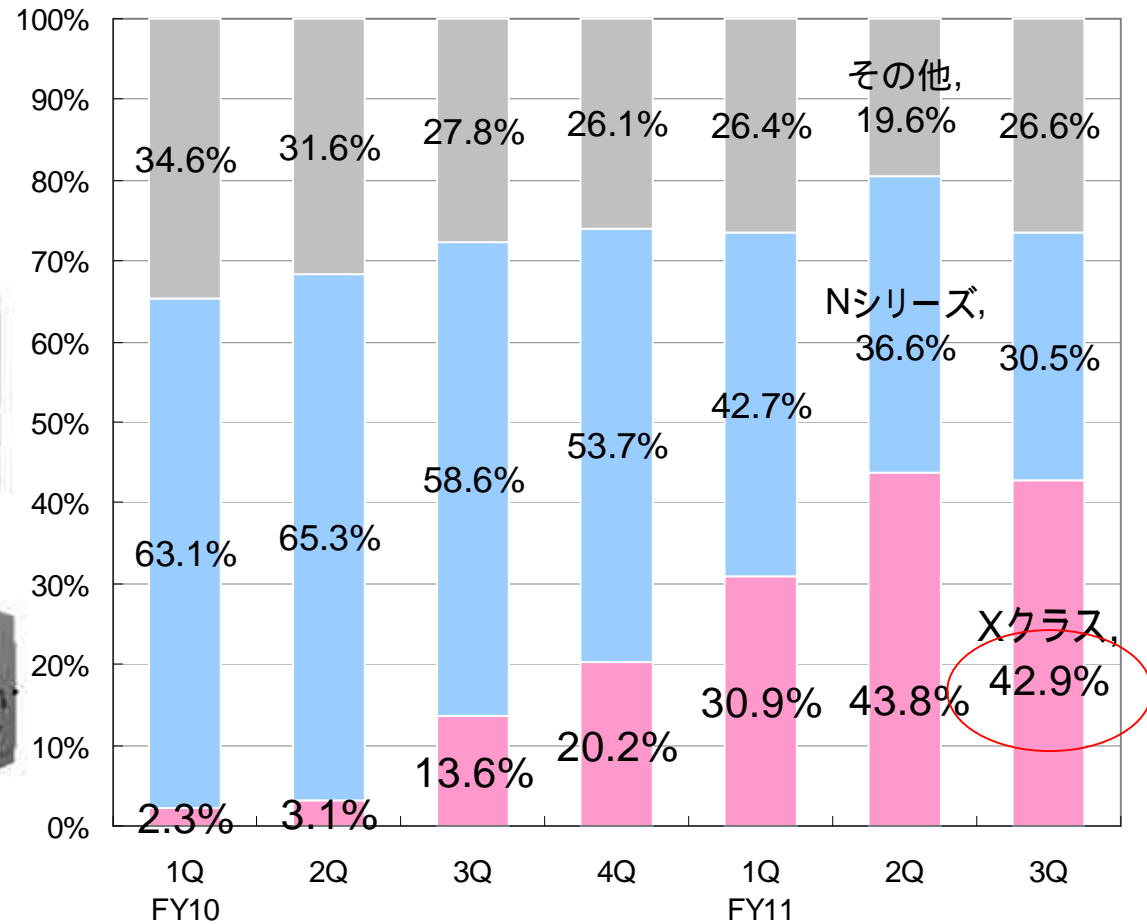
制御盤標準化



GQ-C-SI 123 進捗状況

➤X-Classは順調に市場に浸透。熟成させていく。

受注台数ベース





上海ソリューションセンタ グランドオープンハウス

MORI SEIKI
THE MACHINE TOOL COMPANY



開催期間:2011年11月11日～14日 (開所式2011年11月10日)

開催場所:上海ソリューションセンタ 上海市閔行区光中路331号

出展機 :NH6300 DCGII, NHX4000 w/RPP, NL3000Y/1250, NLX2500Y/700,
NZX2500/600L, NVX5080/40, NZX2000/800SY2,NTX2000/1500SZM

来場者数 :約400名



イノベーションデー 2011 “次世代加工機ショー”

MORI SEIKI
THE MACHINE TOOL COMPANY



開催期間：2011年11月17日～19日

開催場所：伊賀事業所 三重県伊賀市御代201番地

出展機 全39台

DMU 65 monoBLOCK, LASERTEC 40 Shape

NZX2000/800STY3, NLX2500Y/1250, NVX7000/50, NHX5500など

来場者数：約7,000名

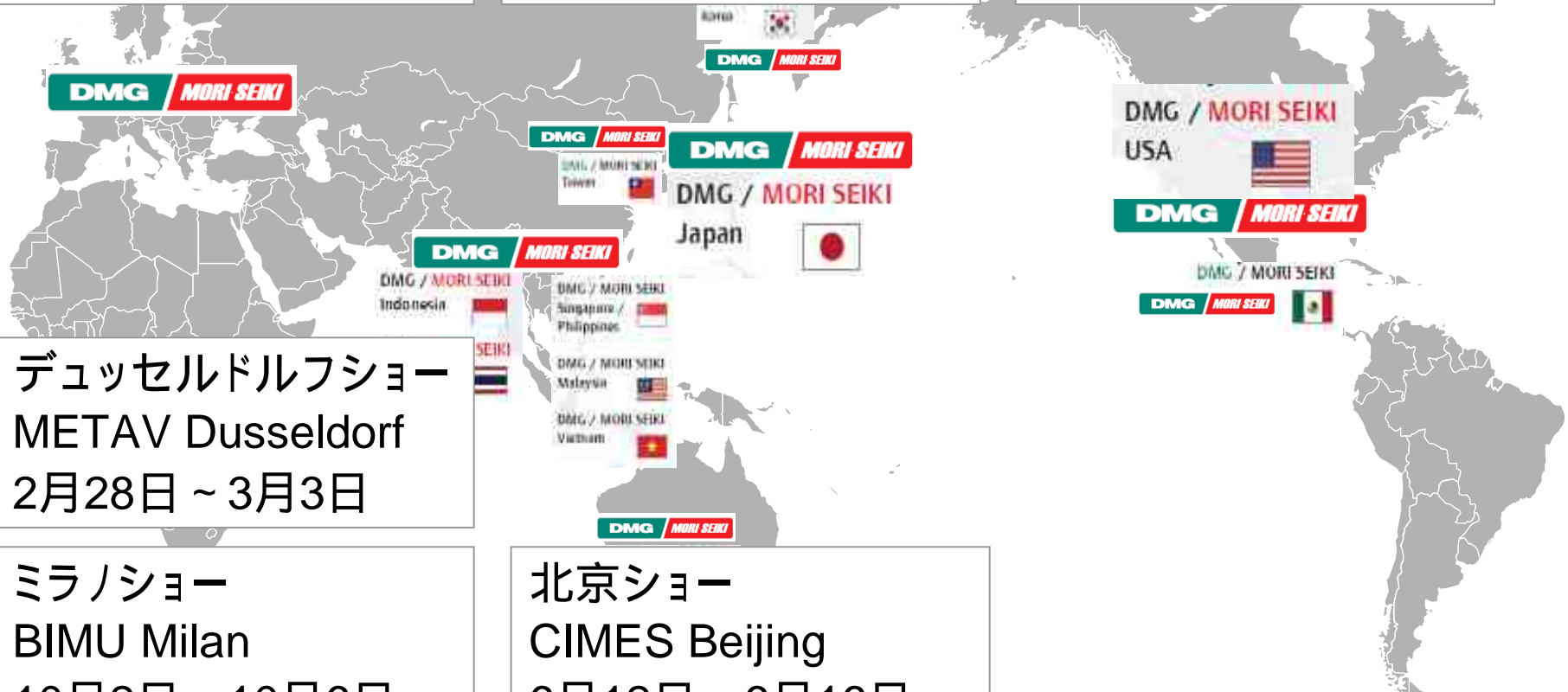


2012年の重要展示会

シュツットガルトショー
AMB Stuttgart
9月18日～9月22日

東京ショー
JIMTOF Tokyo
11月1日～11月6日

シカゴショー
IMTS Chicago
9月10日～9月15日



デュッセルドルフショー
METAV Dusseldorf
2月28日～3月3日

ミラノショー
BIMU Milan
10月2日～10月6日

北京ショー
CIMES Beijing
6月12日～6月16日



DMG/MORI SEIKI フロンテン オープンハウス



開催期間 : 2012年2月7日 ~ 11日

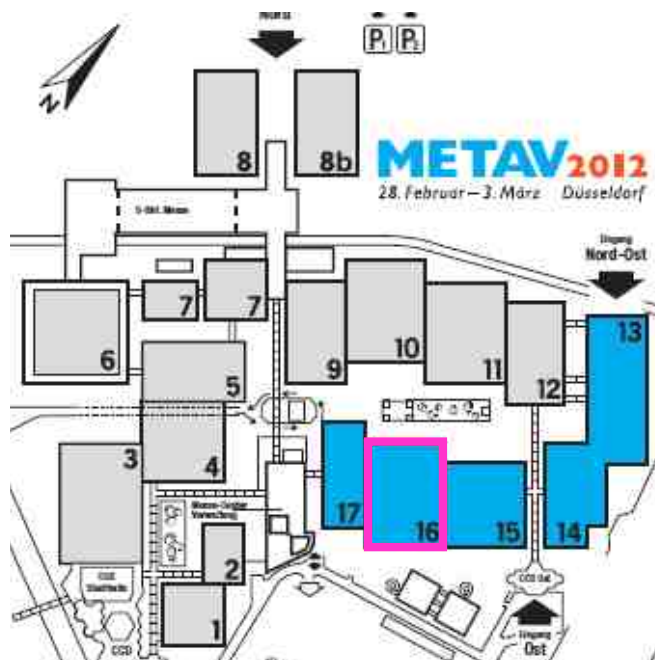
来場目標 : 5,000名 (3,500社)

出展機 : 全59台

NHX4000 (Siemens), NHX4000 (MAPPS),
NHX5000, NHX5500, NHX6300,
NLX2500SY/700, NZX2000/800STY2,
NTX1000, NTX2000/1500SZ など



METAV Dusseldorf 2012



開催期間 : 2012年2月28 ~ 3月3日

来場目標 : 4,500名 (3,000社)

会場規模 : 1,380m²

出展機 : 全28台

NHX5000, NVX5080/40,

NTX2000/1500SZ,

NLX2500SY/700, NZX2000/800T など



製造拠点のグローバル展開

Pfronten*
(Germany)



A

6

Tobler
(France)

5

DIXI
(Switzerland)

B

Shanghai**
(China)



4

長岡太陽工機

3

千葉事業所

2

伊賀事業所

1

奈良事業所

7

北米工場
(Americas)



輸送コスト削減
研究開発費抑制
為替リスク軽減



DMG工場



森精機工場

* ライセンスに基づき森精機製品の生産を行っているDMG工場

**Ecolineを生産しているDMG工場



伊賀事業所 新組立・加工工場建設



新組立工場の様子

新組立工場完成予定図*



●新組立・加工工場概要

- ・目的 : 生産性向上のための工程整流化
- ・組立対象 : 工作機械および工作機械ユニット
- ・加工対象 : ベッド、コラム等の大型加工物
- ・所在地 : 三重県伊賀市御代201番地伊賀事業所内
- ・延床面積 : 約13,000m² (組立、加工とも)
- ・操業予定 : 2012年1月(加工)、2012年5月(組立)
- ・投資額 : 約80億円



北米工場進捗

工場(=20,000m² 月産生産能力80台) : 鉄骨、屋根の建設中



加工 : 伊賀工場にて加工テスト

組立 : DTLにて組立開始



- 4月中旬 加工設備搬入開始
- 6月18日 工場引渡し
- 7月 ~ NHX4000、NHX5000 生産開始



フロンテン工場 NHX4000生産



NHX4000
MAPPS & Siemens





マグネスケール

2011年度3Q累計 売上高70億円

レーザースケール: 半導体メーカーに設備投資抑制の動きが広がり、売上が減少

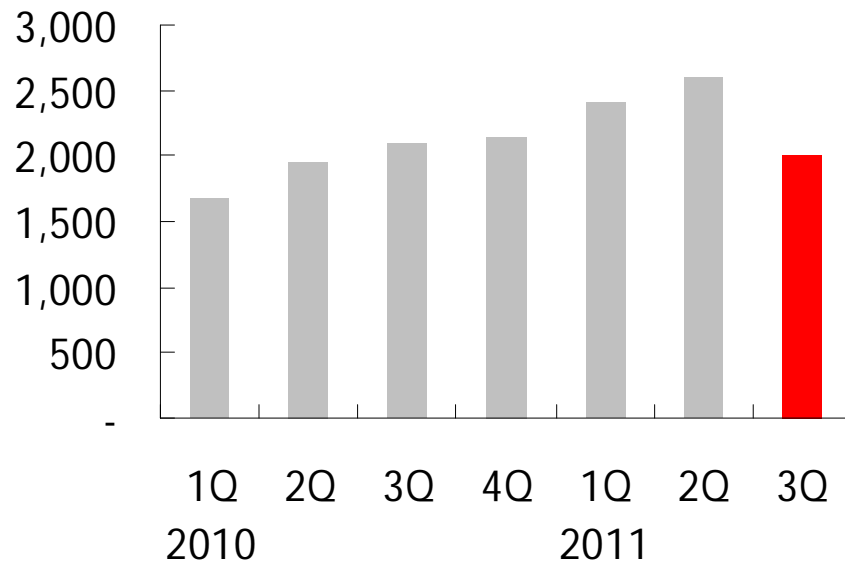
欧州にて生産予定

マグネスケール: 自動車、工作機械向けスケールは堅調に推移

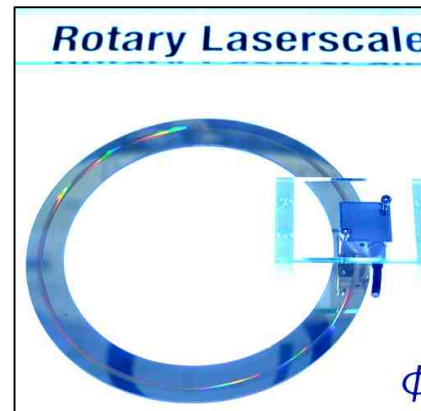
伊賀工場内にて生産

百万円

売上高推移



新製品 超高分解能 回転型レーザースケール



伊賀新工場





参考資料

(百万円)	2010年度 3Q累計		2011年度 3Q累計		2010年度 通期		2011年度通期 (予想)	
				(前年同期比 伸び率)				(前年比 伸び率)
売上高	78,360	110,311	40.8%		120,428	152,000	26.2%	
国内売上高	28,864	36,390	26.1%		44,531	53,200	19.5%	
海外売上高	49,496	73,921	49.3%		75,897	98,800	30.2%	
米州	19,352	32,052	65.6%		29,695	42,100	41.8%	
欧州	16,759	25,886	54.5%		25,912	34,000	31.2%	
アジア (中国含む)	13,384	15,981	19.4%		20,288	22,700	11.9%	
営業利益	-5,366	3,856	-		320	6,300	19.7倍	
経常利益	-6,032	2,476	-		566	4,100	624.3%	
当期純利益	-5,895	1,770	-		1,307	3,900	198.4%	
為替レート 1US\$ =	¥86.8	¥79.0	-		¥85.7	¥78.0	-	
1EUR =	¥113.3	¥110.6	-		¥113.1	¥108.0	-	
設備投資	3,055	7,734	153.2%		4,600	9,000	95.7%	
減価償却費	4,900	4,941	0.8%		6,635	7,000	5.5%	
研究開発費	3,758	2,975	-20.8%		4,809	4,000	-16.8%	



説明会のQ&A

Q:2013年3月期の事業計画について教えて欲しい。

A:これから事業計画を策定する段階にあり、具体的な数字は持ち合わせていない。
円高等厳しい環境ではあるが、シェア拡大等により今年度下期の倍程度を目指して頑張りたい。

Q:2011年3月末比100億円程の棚卸資産の増加要因と今後の見通しについて教えて欲しい。

A:生産量確保のため部品の先行手配、生産の前倒しを実施した結果、在庫が増加した。
またDMG製品のサービスパーツの在庫を充実させたことも一因として挙げられる。
今後は需要に見合った生産体制に移行することができるため、在庫は適正化に向かうが、本格的に棚卸資産の削減が進むのは来年度になるだろう。

Q:伊賀、米国での新工場立ち上げに伴い、供給能力はどの程度拡大するのか？

A:米国は7月から生産を始める予定であるが、初年度は立ち上げ時期にある。
整流化などを進め、供給能力としては月500台程度と考えている。



説明会のQ&A

Q: 4Qの売上に対する確度はどうか？

A: 4Qの売上は概ね現状の受注残から見込んでいる。
従って現状の経済環境下においては計画の達成確度は高いものと考えている。

Q: 今後、原材料の調達費用が上昇する見込みはあるのか？

A: 現状、原材料費は安定している。

(回答者: 代表取締役副社長 経理財務本部長 近藤達生)